

会 議 録

会議の名称	第2回小金井市産業振興プラン策定委員会
事務局	市民部経済課産業振興係
開催日時	平成27年8月31日(月) 午後3時～午後5時
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者 (11名)	委員長 福田 委員 副委員長 正木 委員 阿久津 委員 日野 委員 益田 委員 今井 委員 石黒 委員 鴨下 敏明 委員 鴨下 洋 委員 高杉 委員 長島 委員 藤本 委員(欠席)
傍聴の可否	○可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	1. 委員長挨拶 2. 資料確認 3. 議事 (1) 現行プランの総括と課題 (2) 現行プラン改訂の方針 4. そのほか
会議結果	決定事項なし。

<p>発言内容・ 発言者名  (主な発言 要旨等)</p>	<p>発言内容</p> <p><b>議事 1. 現行プランの総括と課題</b></p> <p>◎<b>福田委員長</b> 現行プランの総括及び課題認識について、ご意見をいただきたい。議論が込み入っているので、前提となる趣旨や条件についての確認でもかまわない。</p> <p>◎<b>日野委員</b> 地域資源活用プロジェクト事業のうち、秋の黄金井フェアについて、参加店が減少しているが、これは店舗そのものの倒産などが要因なのか。</p> <p>◎<b>事務局</b> 当初は賑やかしのために参加店舗数の増加を重視して募集していたが、江戸東京野菜をメインに取り扱わないメニューを提供する店舗が増えてきてしまった。倒産した店舗がなかったわけではないが、そのようなお店の参加をご遠慮願ったため、参加店舗数が減少している。また、来年は事業の大半を担っていた黄金井の里が解散するため、今年までと同様の取り組みを継続することはできず、黄金井フェアも今年で終わる可能性がある。</p> <p>◎<b>日野委員</b> フェアについてのチラシを見ると、どの様な野菜を使っているかがわかりやすく印象的であった。こうした活動が継続できるとよいのではないか。</p> <p>◎<b>事務局</b> 野菜づくりそのものは自然相手なので安定的に供給することが困難で事業の継続に苦慮しているが、活動が継続できるようにしていきたいと考えている。</p> <p>◎<b>鴨下（敏）委員</b> 中身の濃いイベントにする必要がある。また、ユニークで人気のある店のレシピを共有した方が持続可能性はあるのではないか。あるいは参加店があまりにも少ない場合には事業の廃止も一つの考え方ではないか。</p> <p>◎<b>高杉委員</b> 農家の立場からすれば、野菜が栽培しにくい時期のイベントは避けるべきではないかと思う。</p> <p>◎<b>正木副委員長</b> 参加店側の意見はどうか。</p> <p>◎<b>事務局</b> 野菜の栽培時期とずれた時期に行うイベントとしての難しさについては共通した認識があり、日常的な取り組みを重視することも検討している。</p> <p>◎<b>正木副委員長</b> フェアとしてやる場合にはこれまでの実績を踏まえ、店舗数が減少したとしても質を確保できるようにするべきでは</p>
---	---

ないか。あるいはフェアとして単発でやらないことも含めて、次のあり方を検討するべきではないか。

◎**高杉委員** これまでマスコミに頻繁に取り上げられたことを踏まえると宣伝効果は高いと思う。全国的に伝統野菜の見直しが始まっている。

◎**正木副委員長** イベントとして実践するのであれば、その効果検証を踏まえてブラッシュアップすることも重要ではないか。

◎**高杉委員** 商店街振興も出る地区事業の課題について、「都市計画道路の整備」とあるが、全市的な話なのか。

◎**事務局** 東小金井南口商店会の個別の案件。栗山通り（駅前の南側の通り）において都市計画道路が予定されており、道路を拡幅すると既存の店舗が営業できなくなってしまう。

◎**今井委員** 今の形の商店街を残すためのルール作りを進めるための事業である。

◎**鴨下（洋）委員** 観光案内施設整備事業はレンタサイクルなど、取組が少しずつ進展している。

◎**長島委員** VP（ベンチャーポート）入所企業支援事業について、入居率が100%であることをどの様に評価するかは多面的であり、難しい。

◎**事務局** 本来は5年経過すると卒所するものであり、その後は市内に定着して欲しいとの考えがあるので、回転率を高めることを目指していきたい。小金井市は都市計画上、研究施設、工場の立地が難しく、本社機能を分離し、こちらのみを市内に残すことが考えられる。しかし創業直後では本社機能を単独で持つことは難しい場合がある。

◎**石黒委員** 都市型新産業を農工大と連携して育てていくことは大きな意義があり、引き続き取り組むべきである。

◎**鴨下（敏）委員** 入居企業を独り立ちさせる必要がある。企業の中には研究には長けていても経営は不得手な場合もあり、市のサポートが必要ではないか。

◎**鴨下（洋）委員** 市内（駅前）にはオフィススペースが少ないのでそうした基盤整備が必要ではないか。

◎**福田委員長** 市だけではなく、農工大のサポートも必要ではないか。多くの主体が連携して、入所企業が独り立ちして活躍できる場をつくる必要があるのではないか。

◎**日野委員** 入所企業は研究開発に忙しく、市内の物件探し（空き

家含む)まで手が回っていないのではないか。

◎**長島委員** 近隣市町村に活躍の場を求めることも選択肢の一つではないか。

◎**鴨下(敏)委員** 小金井市の立地から、地方企業が東京に進出する際に、情報発信を含めて便がいいと考える場合もある。

◎**長島委員** VPに入所する企業の審査をした際、なぜ小金井市で起業するのかと問うと、「少し田舎だから」、「住みやすいから」というユニークな回答が得られる。

◎**福田委員長** 川上型の産業を発信する、新しい形があっても良いのではないかと思う。

◎**長島委員** 小金井市の産業の特化係数を見ると、教育、学習支援業の比率が高い。大学との連携はもっと推進することが出来るのではないか。

◎**福田委員長** 大学との連携事業については、成果や進捗を統一した形で「見える化」をする必要があるのではないか。

◎**正木副委員長** 大学として、というよりも個別の研究室や学部単位の取組が多い。その取組を第三者が評価し、外部へ発信することが不足している。大学内においてキャンパス外との連携について必ずしもコンセンサスが得られているわけではない点も課題である。

◎**日野委員** 学芸大の附属幼稚園での教育プログラムはユニークであるが、一般の方の認識は必ずしも深くない。

◎**高杉委員** 市内の家庭菜園は多くなっているが、プロの目から見てやるべきことをやっていない場合があり、農業や野菜づくりについての理解を深める活動が必要である。

◎**阿久津委員** 資料4をみると、大学の特色を活かした活動はまだまだ不足しているのではないかという印象を受ける。

◎**日野委員** 札幌では酪農大学と連携して地域の子ども向けの生態系に関する体験学習を行っている。子どもと一緒に大人も学習することが出来る機会である。

◎**正木副委員長** 学ぶことを通じて経済活動が発生することを目指すべきではないか。大学の特色を意識して、学生を育て社会に還元するという視点を持つことが重要である。

## 議事2. 現行プラン改定の方針

◎**福田委員長** 資料2の「現行プラン改定の方針」についてご意見をいただきたい。

◎**日野委員** 追加資料1の4ページでいう「広域的な空間の管理・活用」は小金井市で実践する上でイメージが近いのではないか。商店街だけでなく学術機関の学生を巻き込んで、例えば簡単な実験が行えるような、大勢が参加できる体験型のイベントを仕掛けると面白いのではないか。

◎**正木副委員長** 中間支援機能を考える上で「ヒト」という視点はきわめて重要である。例えば、地域版のコンシェルジュを育てることがよいのではないか。育てたい人材像を固めることが重要である。地域産業を活性化することがゴールではない。

◎**高杉委員** 商店街を歩いていると休憩できるスペースが少ない印象がある。そうしたスペースが店舗と連動していると消費もするのではないか。例えば空き店舗を休憩できるスペースにすることもよいのではないか。子どもの見守りという観点からも有功ではないか。

◎**正木副委員長** 高校生が社会貢献できる場作り（居場所作り）を地域が率先して取り組むことも重要である。

◎**日野委員** 老若男女を問わず、自然と落ち着けるスペースがあるとよいのではないか。

◎**益田委員** 「コト消費」の概念自体は大事である。何かを作って消費を促すことだけではなく無意味なものにも価値があるのではないかと感じる。

◎**鴨下（敏）委員** 課題と方針が対応していないのではないか。コト消費の事例も小金井市と必ずしも対応していないように感じる。中間支援組織についても、現在の黄金井の里と違う点がわかりにくい。

◎**事務局** 中間支援組織について、黄金井の里は産業振興プランに沿って事業を運営することが中心であったが、プラン改定後は市内の多様な主体をつなげ、事業運営を行っていただくことを主眼にしている。

◎**今井委員** 駅前の再開発に伴って床面積を広げることはかまわないが、今後は地元で暮らしている、生業を行っている人が事業を持続していけるビジョンが必要ではないか。

◎**福田委員長** 近隣の吉祥寺ですら、場所によっては従来のオーナーではない方が出店しているケースが目立つ。本市において、工夫を凝らすことで地域のアイデンティティを活かしたまちづくりを行うこ

	<p>とはきわめて重要である。</p> <p>◎<b>鴨下（敏）委員</b> 本市は三宅島と友好都市関係がある。かつて、三宅島から新鮮な魚を市内で楽しむことが出来るチャンスがあったが、行政の支援不足や採算の関係で尻すぼみになってしまった。こうしたことを市の独自性につなげていくべきではないか。</p> <p>◎<b>日野委員</b> このプランの主眼は市民向けなのか、市外の方も対象にしているのか。</p> <p>◎<b>福田委員長</b> まず市民の方が住んでいる地域に対する愛着を持つことが重要ではないか。観光の観点も重要であるが、前提として内発的な取組であることが重要である。</p> <p>◎<b>日野委員</b> 市民がこのプランでうたわれている内容に関心を持つことが重要である。</p> <p>◎<b>正木副委員長</b> この委員会の場だけでも多様なバックグラウンドを持つ人が集まっている。コアコンセプトがないと議論を進めにくいのではないか。</p> <p>◎<b>福田委員長</b> 事務局に対して SWOT 分析など、この場に出された材料をまとめた分析を次回までをお願いしたい。</p>
提出資料	<p>資料1 第2回策定委員会の論点</p> <p>資料2 現行プランの総括と課題</p> <p>資料3 関係団体ヒアリング結果に基づく推進事業の評価</p> <p>資料4 第2回策定委員会における議論の基礎となるデータ一覧</p> <p>資料5 将来の市区町村別人口および指数</p> <p>追加資料1 「コト消費」について</p> <p>追加資料2 商店街事例</p>
その他	<p>第3回策定委員会は9月28日（月）15時から商工会館2階の大会議室にて開催する。</p>